

行政視察報告

福祉文教委員会

福祉文教委員会では、児童・生徒の成長に資する事業を推し進めるため、また、家庭、学校、地域が一体となって、社会に開かれた学校づくりを推進できるよう研究することを目的として、「小・中学校一貫教育の推進について」を所管事務調査事項としている。

先進地の様々な小中一貫教育の取組について更なる調査研究を進めるため、平成18年度から全国に先駆け小中一貫教育に取り組まれている品川区を視察することとした。

視察地 東京都品川区

視察期日 令和7年2月6日（木）

視察事項 小・中学校一貫教育の推進について

参加者 （委員長）鴻井 伸二 （副委員長）寺島 和成
（委員）中野 芳則、ぬのや 和代、みねざき 拓実
目黒 えり、山崎 勝、山内 公美子
（随 行…和久井庶務係長、大座主任）

1 小中一貫教育の取組について

品川区では大きな3つの柱を掲げて小中一貫教育に取り組んでいる。

(1) 地域とともにある学校づくり

全ての区立学校を品川コミュニティ・スクールに指定している。品川コミュニティ・スクールでは、保護者、地域住民、学識経験者等で構成される「校区教育協働委員会」と本の読み聞かせや放課後学習支援などの地域の学校支援ボランティアで構成される「学校支援地域本部」を設置し、それぞれの組織の運営に携わる「学校地域コーディネーター」を設置している。地域住民等が学校運営に積極的に関与することで学校と地域が一体になって、継続性を保ちながら教育活動の改善や児童・生徒の健全育成に取り組んでいる。

また、地域全体で学校教育を支援することで、学校の教育活動の充実を目指すとともに、地域の人材の有効活用や地域の教育力の活性化を図っている。

(2) 3校種（小学校・中学校・義務教育学校）体制における学校教育の推進

平成27年の学校教育法の一部改正に伴い、平成18年度から順次設置してき

た施設一体型小中一貫校を「義務教育学校」と位置付けた。現在、小学校（31校）、中学校（9校）、義務教育学校（6校）を設置している。

義務教育9年間の一貫教育において、1つの中学校または義務教育学校（後期課程）と、通学区域を共有する1～3校の小学校または義務教育学校（前期課程）とで構成する「連携グループ」を中学校・義務教育学校（後期課程）ごとに設定している。

(3) 9年間の一貫したカリキュラム

義務教育9年間を通して、より充実した学びを得られるよう、各教科の系統性を明確に示した「品川区立学校教育要領」を作成している。また、1年生からの「英語科」や「市民科」など独自のカリキュラムを定め、品川区立学校教育要領にもとづき、小学校、中学校、義務教育学校のどの学校でも同じ教育を受けることができる。

2 独自のカリキュラム

(1) 英語科

1年生から6年生を対象に「英語科」を実施するとともに、独自のカリキュラムにより義務教育9年間の系統的な英語学習を展開し、英語力向上に取り組んでいる。

学年	内容
1・2年生	学級担任とALT（外国指導助手）による授業（年間35時間） ネイティブの英語を聞き英語に慣れ親しむ。
3～6年生	学級担任とJTE（英語専科指導員）による授業 （3・4年生：年間35時間、5・6年生：年間70時間） 教科書を使用するとともに、物語を題材にした学習に取り組み、英語を身に付ける。
4年生	ジュニア・イングリッシュキャンプ（英語による体験活動）
7～9年生	教科担任とALTによる授業（年間10時間） オールイングリッシュを基本とする少人数指導を実施
	品川オンラインレッスン（1回25分、7年生：年間4回、8年生：年間8回、9年生：年間4回） インターネットを使用し、海外の講師からのマンツーマンの指導を受け、英語を活用する。
	スコア型4技能検定の実施 4技能（聞く・読む・話す・書く）の測定を実施し、成果の総合的判断を行う。

(2) 市民科

特別の教科である道徳、特別活動、総合的な学習の時間を統合・再構築した品川区独自の教科であり、義務教育9年間を通じた系統的な指導で、市民（社会の形成者）としての資質と能力を育てている。3年生から9年生では各学校区で目

指す児童・生徒の育成をねらいとした一貫プランを実施している。



品川区役所にて担当職員から説明を受ける委員

3 義務教育学校 豊葉の杜学園について

(1) 学校概要

平成25年4月に豊葉の杜中学校（平成23年4月に2つの中学校が統合）と豊葉の杜小学校（平成25年4月に2つの小学校が統合）が一緒になり、施設一体型小中一貫校として豊葉の杜学園が誕生し、法改正に合わせて平成28年4月に義務教育学校として義務教育9年間の一貫教育を行う学校として開校した。幼保一体施設（二葉すこやか園）が併設されており、連携を図り15年間の一貫した教育を目指している。

(2) 経営方針

「MAKE EVERYONE SMILE」（全ての人を笑顔に）を学校理念として掲げ、9年間を通して、様々な交流を大切にしている。将来、「未来を創造する協働的リーダーシップ」と「困難を乗り越えるレジリエンス」を獲得することを目指している。

(3) 児童・生徒数、学級数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援 前期課程	7年	8年	9年	特別支援 後期課程	合計
児童・ 生徒数	93	93	97	96	92	89	24	141	141	152	16	1034
学級数	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	3	36



豊葉の杜学園にて学校長から説明を受ける委員

(4) 学校施設



1階エントランス

学校の標準服などが展示されている。



教室

各学年の学級数に合わせて柔軟に教室の入れ替えができるように同じ広さになっている。



ベンチ

廊下に木製のベンチが設置されており、児童・生徒の交流の場所となっている。



教師コーナー

教員が職員室に戻らずに次の授業の準備ができるスペースで各フロアに設置されている。



図書室

開放的な空間で気軽に本を読めるように工夫されている。



校庭

グラウンド前面を人工芝として、体育の授業や運動会で使用されている。



アリーナ

バレーボール、バスケットボールのコートが3面とれ、体育の授業、朝会、集会等で使用されている。

4 視察を終えて

品川区は全国の中でも小中一貫教育にいち早く取り組んできた自治体である。全ての区立学校がコミュニティースクールに指定され、各地域に小学校、中学校および義務教育学校があり、保護者は、単独型の小学校および中学校を選択することも、小学校を卒業した後に義務教育学校に編入することもでき、児童・生徒の特性や状況の変化に応じた学校を選択することができる点は非常に魅力的であると感じた。

小中一貫教育においては、「英語科」と「市民科」で独自のカリキュラムを採用しており、特に英語教育では、1年生から9年生までの間に段階的に英語に親しみ、身に付け、活用できるように工夫されている。技能検定で9年生の英語検定3級程度の能力がある生徒が8割を超え、全国平均を大きく上回り、非常に成果が出ているとのことである。また、学校教育要領にもとづき、どの学校でも同じ教育を受けられ、単独の小・中学校と義務教育学校で英語の習熟度に大きな差は生じていないとのことである。

義務教育学校 豊葉の杜学園では、1年生から9年生までの児童・生徒が同じ施設を利用することから、5年生から7年生までを同じフロアにするなど、自然と交流が生まれるように教室の配置が工夫されている。前期課程から後期課程への移行がスムーズに行われるよう配慮されており、同じ学校内で9年間を過ごすことの大きなメリットであると感じた。

小中一貫教育を考えるに当たって施設一体型の学校を新設するというハード面に重点が置かれがちであるが、品川区の英語教育のようにソフト面にも重点を置く取組は大変参考になるものであった。また、学校の周りには地域センターが併設されており、学校のプールを地域に開放するなどしており、学校と地域とのかかわりに

についても、別の機会に視察ができればと思う。

現在、青梅市では青梅市立学校施設のあり方審議会において検討が行われているところであるが、議会においてもその動向を注視しながら、青梅市の良さを活かした、地域に合った学校、小・中学校一貫教育の形について、今後も引続き議論を重ねていきたい。

(福祉文教委員長 鴻井 伸二)



豊葉の杜学園正門にて